



## 熊の話

札幌市医師会 濱田 幸治  
はまだ内科・神経内科クリニック

今年の春はあまり熊の話題はないようだが、一昨年は熊の話が各地から聞かれた。特に定山溪で山菜取りの男性が熊に襲われ、食われた話は悲惨だった。捜索隊は、熊によって隠されていた肉片を探し出したという。この話を聞いて、僕は吉村昭の小説“熊嵐”の恐怖をまざまざと思い出した。

僕が育った村は、某市の片田舎である。今ではメロンで有名になっているが、僕たちが育った頃は、特産品もないありふれた貧村であった。その小さな村には開拓と呼ばれる山に近い農地がたくさんあり、秋になるとそのあたりに、しばしば熊が出没した。

僕が小学1年の秋のことだった。学校で授業を受けていた時、“熊が獲れたので授業を中止して全員駅前に集合”というお触れが回った。小中学生全員が集まった前に、1台のトラックが現れ、そのトラックの荷台には大きな熊が両手を広げた格好で吊されていた。熊の隣には猟師さんが2人おり、そのうち1人がハンドマイクを片手に持ち、得意げにこの熊の獲れた状況や体重、年齢、オス、メスの区別などを話してくれた。話の区切りのたびに僕たちは、拍手した。しかし、周囲の熱狂とは別に、僕は吊され首を垂れて死んでいる熊がかわいそうに思ったのを覚えている。

この一件でも分かるように、僕たちにとって熊はかなり身近な存在であった。秋になると熊はよく畑を荒らした。どこそこの畑ではスイカを全部割られたとか、別の開拓の畑では、とうきびをた

くさん倒されたなどが報告された。熊が出たという日は、僕たち街に住んでいるものを除いて、上級生から下級生まで地域ごとに集団で下校した。先頭に立つものはベルやホイッスルなどを持たされ、それを鳴らしながら帰宅する。クラスみんなは熊の情報は何でも聞きたかった。畑などに熊の訪問を受けた家の子は、クラスの中では英雄扱いで、皆は話を詳しく聞きたくてその子の周りを取り囲んだ。

“ひっでいもんだ。スイカなんて全部パーよ。熊の野郎、面白半分<sup>は</sup>にスイカを全部割っていきやがった。”などという話を僕たちは目を輝かしながら、聞き入った。こんな話を聞くと僕は、スイカが全部割られている状況やとうきびが、なぎ倒されている畑などを見たくて見たくてたまらなかった。しかし、家の両親はもちろん、学校の先生、大人たちにも、熊が出たような畑には決して近づいてはいけな<sup>い</sup>と止められていた。

この村にも、秋になると小さな村祭りがあり、出店や綿あめの店が神社前に並んだりした。お祭りは僕たちの最も楽しみにしている行事の一つであった。このお祭りに合わせて、馬の品評会などとともにアイヌ犬の優劣を競う大会が催されたことがある。近隣の村々にはアイヌ犬を飼っている人が多かった。それぞれのアイヌ犬が、この犬の本来の働きである熊追いの能力にどれだけ長けているかを競う。この大会に、まだ体長1メートルほどの小熊を連れてきて、その熊にそれぞれのアイヌ犬がどれほど勇敢にかかれるかを競った。アイヌ犬は見かけでは能力は分からない。見るからに強そうな犬が熊にかかってみると、意外に尻込みばかりして駄目だったり、痩せて弱々しげに見える犬が勇敢だったりする。これを大人も子供もはや囃したてながら楽しんだ。犬が熊に吠え掛かる様子を見るのはとても興奮したが、この大会で僕が最も印象に残ったことは、一見かわいらしく見え

る小熊が犬にかかされると、途端に野生を剥き出しにし、うなり声をあげ、牙をむき、その短い太い手をすばやく動かし犬を威嚇する様であった。小熊といえどもその姿にはとても迫力があり、犬も怖気を奮い尻込みするものが多かったが、遠くで見ている僕たちも震えさせるものがあった。

僕が小学4年生の秋のある日のこと、僕の級友のI君が自分の家の畑の隅に、熊の糞を見つけたと興奮してみんなに話していた。

“どんなんだった”

“こんなでっかくて、ねっこりだ。とにかく、でっけえ”

僕はこの話を聞くと、もう矢も盾もたまらなくなり、放課後、熊の糞を見せてもらうために、I君にその現場に連れて行ってもらうことにした。それからの授業はほとんど耳に入らず、先生の話も上の空で、授業が終わると早速、家にランドセルを放り投げ、I君とともに熊の糞見学に出発した。I君の家は開拓といってもまだ街に近い。子供の足で4～50分で行けるころにあった。I君の家の途中、弁慶号に似たかわいい機関車に引かれた列車が走る私鉄線がある。この鉄道沿いを歩くとI君の家は少し近くなる。学校では線路を歩いてはいけないと禁止されていたが、I君はいつもこの線路脇の道を通っているようだった。この日も当然のようにこの道を通ってI君の家に向かった。

I君の家に着くと、まず家の前に生っているトマトを取ってきて、2人で一緒にそれをほおぼりながら、現場に向かった。現場はI君の家から山の方へ10分ほど歩いて行ったところにあるとのことだった。山の斜面を利用した畑をだらだら登り、畑の外れまで歩いて行くと、草むらに何か黒いものが固まっているのが見えた。I君はそれを指差し“これ、これ”と言って僕の顔を覗くように見た。近づいてよく見ると、それは黒々とした中にも様々な色のバリエーションがあり、少し赤茶気たものや、木の実、果物の種なども混じっていた。臭いはあまりしなかったが、銀バエが回りを飛び回っていた。

今朝、初めて聞いた“ねっこり”という表現が

妙に実感された。ネトツとしていてしかもこんもりというような意味だろうか。興味に駆られてしげしげと見ていると、急に近くの草むらが、さわさわと鳴った。あたりを見渡すと、変に静まり返っており、山の方の木陰には何かが潜んでいるように感じられた。2人とも急に怖くなって、わっと言いながら慌てて走り出し、I君の家に戻って来た。家に着くと、はあはあ荒い息を吐きながら、僕たちはお互い、急におかしくなって顔を見合わせて笑った。

それから“おっかなかったねー”“熊のうんこ、でっかかったね”などと言いながら家に入って行って、それからは漫画を読んだりして遊んだ。しばらく遊んでいるうちに夕方になり、僕は慌てて帰ることにした。

帰り道の途中で、つるべおとしの秋の陽はあつという間に沈み、あたりは暗くなり、天上には星が輝きだした。“夕飯には間に合うだろうか、両親は怒っていないだろうか”などと不安が胸をかすめる。黒く沈む窪みや木の陰などから、何か怖いものが出てくるのではないかと、様々な妄想が浮かび、足はしだいに速くなった。足を速めると後ろから、誰か同じ足取りでついてくるようでも後ろは振り返れなかった。足は地につかず、胸はドキドキと早鐘を打ったように高鳴った。

ようやく、私鉄線からはずれ、本線につながる谷間の細い道を必死で抜け、さらに本線を横切る。ここは、かつてある人が飛び込み自殺を図った場所と聞いていた。全力で線路脇の土手を駆け上がり、一気に家まで駆け込んだ。

家の中は拍子抜けするほど静かで、台所では、お手伝いのお姉さんが夕飯の支度をしており、おいしそうな夕食の匂いが漂っていた。兄たちは2階に行っているのか見えず、両親も仕事場にいるようだった。ストーブの回りには猫が寝そべっていて暢気そうに足を伸ばし、大きなあくびを1つした。何だか一気に力が抜け、ほっとしたためか急に空腹を感じた。

この日僕は、何だか大変な冒険をしたような気がしていた。

## 札幌ドーム：初の人工芝と天然芝の入れ替えを見学して

札幌市医師会 近藤 浩  
近藤整形外科医院

3月11日に札幌ドーム（愛称：ひろば）で世界初の人工芝と天然芝の入れ替え作業を見学した。

昨年のW杯の札幌開催が決定して以来、単なるサッカー場だけではなく、多目的施設として利用できる「札幌ドーム」の構想は世界に類をみない可動式ピッチ（天然芝）はオランダに次いで2番目の方式である。しかし、雪深く寒さが厳しい北海道での多目的施設は世界初である。ピッチ全体は、巨大な板の上に乗っており、重さ約8,300 t。

日本では5つめの本格的な全天候型ドームであるが、屋内・屋外2つのアリーナを持つ「デュアルアリーナ」で構成され、2つのアリーナ間を行き来する「ホバーリングサッカーステージ」は画期的なシステムである。

まさに新しい巨大な船舶が進水するような光景を見て感激した。

昨年のW杯では開催が6月のため、芝の入れ替えは雪の融けた4月に行われた。

通常は天然芝をオープンアリーナの太陽光の下で養生している。そのために積雪期の芝の入れ替えは今回が初めてである。

この日は午前8時に作業開始、まず、巨大な電気式の除雪車（幅約10m）のような人工芝を巻き取る機械3台が3分割された人工芝を直径約2mのローラーで巻き取っていく。巻き取った厚さ5cmの芝は直径約3mに及ぶ。サッカー場の芝は縦120m、横85m、厚さ1.35m、重さ8,300 t（ジャンボジェット機の約8機分に相当）である。

自然芝は2月上旬から約6mの積雪の除雪作業がボランティアも含めて行われた。

人工芝の巻き取り後、天然芝のピッチの下に空気を送り込んで圧縮した空気圧を利用し、ホバークラフトのように10分の1の重さにして、格納されたジャンボ機の車輪と同様に屋外から屋内に移動する。

天然芝の浮上には「ホバーリングステージ」と呼ばれる世界初の方式で圧縮させた空気圧で約7cm浮上させ、電動式の車輪34個、3列を使って野外からドーム内に出し入れする。

天然芝の浮上や移動は横についているデスクトップ式のパソコンに似た操作盤で行っている。移動速度は時速約4km（人がゆっくり歩く程度の速さ）であるが、屋外ではややゆっくり、屋内では出し入れする入口の傍らで見ていたが、意外に速く感じられた。所要時間は約30分であった。

その後、出入り口のガラス入りのシャッターが左右から静かに移動し、中央で完全に密閉された。ついで左右の壁の間に格納されている観覧席がシャッターと同様に移動し、さらに上にせり上がる。この移動と同時に屋内に移動した天然芝は約25分かけて時計回りに90度回転させた。その間、中で作業中の職員は10数名に過ぎない。

天然芝は11月以来、ドーム内に姿を現わした。芝は一部茶色がかっているが、15日のコンサドーレ札幌と横浜FCとの試合まで養生される。

ちなみに施設本体の工費は350億円、取り付け道路や用地も含めた費用は、537億円である。さらにホームグラウンドとなる「日ハム」の事務所も併設される。

サッカー、野球、種々の催し物やコンサートなど多目的施設の設置が札幌市の長年の夢であったという。札幌市周辺の年間の降雪量は、5m近くに達する。そのためドームが雪につぶされないよう、南北断面を飛行機の翼断面のような形にし、北風で吹き飛ばされないように設計された。収容人数は4万2千人。ピッチには、寒さの影響を減らすためにヒーターが埋め込まれている。

ドームは平成10年6月から13年5月までの約3年間で完成された。

設計・監理はアトリエ・ファイ建築研究所・アトリエブング特定共同企業体。

構造はRC+SRC+S造、階段は地下2階、地上4階、塔屋2階。

敷地面積は307,455㎡、建築面積は53,620㎡、延床面積91,073㎡、最高高さ（平均地盤面から）57m、サッカー練習場も2面ある。

芝の入れ替え作業時間は約6時間で、サッカー

やプロ野球が2日続けて行われる場合にも夜間中に入れ替え作業が行われる。

主要用途はサッカー場、野球場、多目的観覧場などに利用され、また、昨年からは札幌国際スキーマラソンのスタート、ゴール地点となり、大勢の見物客で賑わった

また、2007年にクロスカントリーW杯が白旗山を会場に開催されるが、選手の練習場として、大通6～8丁目とドーム内周囲(約5.5km)にコースを設置する予定である。

昨年秋にはトレーニングルームも併設された。最新のトレーニングマシンと専属のトレーナーが常駐し、個室のシャワー室もあり、私も週1～2回利用している。

駐車場(羊ヶ丘通り入り口)は2時間まで無料である。

ドーム本体であるクローズド・アリーナの利用料金はプロ野球やサッカーなどの戦・鑑賞型イベ

ントの場合、2万人まで1人あたり800円が基本料金となっている。また、大型イベント以外にも、冬期間を中心としたドームの空時間の活用として、草野球などの時間貸し利用料金は平日3時間で20万円(日・祝日は、2.5時間で20万円)。

利用料金は展望台ツアーが大人500円、トレーニングルームも500円である。

サッカーの練習場は1時間、2,400円、駐車場はプロ野球などの来場者集中型イベントの場合、1台2,500円、展示会などの分散型イベントの場合は2時間まで300円である。

市民の税金で作った施設でもあり、地下鉄福住駅から歩いて15分程度であり、多くの市民への利用を呼びかけている。

最後にドーム設置前よりお世話下さった職員の皆さん、特に古屋永生氏に深く感謝申し上げます。

## お知らせ

### 日本関節運動学的アプローチ(AKA)研究会 第6回北海道東北地域技術研修会

AKA (Arthrokinematic approach) ; 関節運動学的アプローチは、関節拘縮を治療する目的で、1976年より研究されている方法です。従来の運動療法の欠陥を補うことを目的に開発されたAKAは、当初、関節痛が消失する現象が認められたために、慢性疼痛などの痛みの治療技術としての開発も進みました。腰痛、四肢のしびれ、及び痛み等を呈する症例で、神経ブロックの効果が不十分な症例に有効なこともあり、治療法の選択肢が増えるということからも臨床的価値は高いと考えられます。

さてこの度、日本AKA研究会理事長博田節夫先生を御招きして、以下の要領で技術研修会を開催する運びとなりましたのでお知らせいたします。

開催日時：平成15年6月22日(日)

9時30分～14時30分

開催会場：〒006-0023 札幌市手稲区手稲本町

3条1丁目3-41

手稲コミュニティセンター

電話：011-681-2133

参加人数：約60名

参加費：15,000円

(昼食代、技術マニュアル書代を含む)

研修会幹事：〒047-0263 小樽市見晴町8-24

太田整形外科医院 太田貴之

電話：0134-62-3131

FAX：0134-62-3132

申し込み方法：住所、氏名、電話番号、FAX番号、勤務先の医療機関名、及び職業(Email address)を明記の上、上記幹事までFAXにてご連絡ください。

申込締切：5月24日(土)